

としょかんワークショップ「みんなではなそう未来の図書館」一般編 4 回 詳細版

令和 2 年 10 月 11 日（日） 9：00～12：25

<開会>9：00～

生涯学習課菊池

はい。皆様、おはようございます。ご案内の時間、9 時ちょっと過ぎてございます。本日の図書館ワークショップ、始めて参りたいなと思います。改めまして、皆さん、おはようございます。本日もご参加をいただきましてありがとうございます。今回で第 4 回目の開催となります。前回、第 3 回目は、テーマに「話そうみんな夢の図書館」ということで、第 2 回に出されたアイデアから、意見から、班ごとに重点を導き出すという作業を行っていただきました。さて、今回第 4 回ですが、テーマに「作ってみようみんなの図書館①」ということで、前回に続いてワークショップを行っていくということをお願いしたいと思います。本日も皆さんで愛着を持って利用してもらえ、そんな図書館を考えていきたいというふうに思います。まずは、開催に先立ちまして、花巻市生涯学習部長の市川からご挨拶申し上げます。

生涯学習部長

はい、皆さんおはようございます。今日もたくさん日曜日お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。皆様方からのですね、ご意見、アイデアをいろいろ見ておりますが、本当に我々では気がつかなかった部分とか、あと、やはり予想はしていたんですが、声が大きい意見とか、いろいろ確認をすることが出来まして、大変参考になるなというふうに思っております。4 回目になりましたが、これから基本構想に基づいた分類といいますか、サービスについて、少し分けていきながら、基本計画の素案につながるように、ご意見をまとめていきたい、というふうに考えております。4 回目、5 回目でその素案のもとになるような、分類にしていきたいと思っておりますので、また、今までのアイデア、それにプラスして、皆さんのアイデアからまたいい意見が生まれることもあると思いますので、どうぞ、今日もよろしくお願いいたします。

生涯学習課菊池

はい、ありがとうございました。それから本日もですねアドバイザーとして、富士大学から早川先生にお越しをいただいております。先生どうぞ、今日もよろしくお願いいたします。先生には今日所要所でアドバイスをいただきたいと思います。それから、次に本日のタイムスケジュールになりますが、この後ですが皆さんの資料、黄色い資料のですね、3 ページのほうにも、時間割やワークショップの内容書いておりましたけども、スクリーンのほうにも映してございます。こんな感じで進めてまいります。の後、9 時 10 分から、大体 65 分間という感じでありますがグループワークその 1、それから休憩を挟みまして、後半部分はワークショップ②ということで進めてまいりますし、そのあと、発表をして講評をいただいて、終了といったような流れになります。前回と同じような流れになります。こういった時

間配分で進めてまいります。いつものとおりですね。ちょっと終了時間がちょっと押しぎみだということもありますので、そこはちょっとご容赦いただきたいと思います。途中で抜きたいという方は、抜けていただいても大丈夫ですということをお願いいたします。それから、本日も記録用にですね、カメラで撮影をしております。同じくホームページとか、広報などで、様子を紹介するという予定にしておりますので、ちょっと映りたくないというところがありましたら、お声掛けをください。ちょっと毎回同じような説明であれなんです。この会場ですけども、本日もコロナ対策のためですね、ちょっと定員内での利用としております。常時入り口をですね、開放しながら、換気しながら行っていますので、各自、マスクや手洗いなどをお願いいたします。早速なんです。ちょっとワークショップのほうに移っていききたいというふうに思います。ちょっと説明が長くなってあれなんです。今回もですね、前回に引き続き、グループワークを進めていくというわけなんです。花巻市に必要な、新しい図書館のことを考えていきたいということで、今日もワークショップを重ねていきます。20代・高校生編のときにもちょっと同じことを言ったことがあるんですが、また同じようなことをやるのかなというふうに思われるかもしれませんが、生涯学習の中では、「学びと活動の循環」といったような言葉が、あります。そういった言葉が使われたりします。これは学習することで、地域社会に貢献したいという思いと、実際に貢献出来たことでさらに学びたくなる。そうした考えを生かしていくというものです。ワークショップも、この学びと活動の循環というものに当てはまるんじゃないかなというふうに思っています。1人で考えて、みんなで考える、そして、みんなで考えた結果が役に立つ。そういった繰り返しがですね、そういった考えが循環となりまして地域社会の貢献につながるのではないかとということで、大変意義深い活動だなというふうに思っております。ちょっと朝一でまだ私自身も頭が回っていないところなんです。ちょっとアイスブレイクしながら進めましょうか。

(アイスブレイク)

それでは改めまして、まずは、毎回同じになりますが、参加者交流から始めたいと思います。本日も、各テーブルにですね、参加者の皆さん、それから、テーブルファシリテーターの職員と、花巻市立図書館の職員というメンバー構成で、座っているという状況です。前回から、高校生・20代の皆さんにも参加していただいておりますが、さらに新しい参加者が増えたところもあります。その班は、改めて自己紹介を行っていただきたいというふうに思いますが、そうでない班もありますので、ちょっと変えていききたいと思います。新しい人が入ったところは、1人30秒程度で、お名前、それから仕事とか学校、それから、最近嬉しかったことなんていうので、自己紹介していただければと思います。それから、前回と同じメンバーですよというところは、名前を言っていただくんですが、例えばこの2週間で

こんなことが気になりましたとか、これを皆さんに紹介したかったなんていうのがですね、ありましたらば、簡単に紹介してもらえればなというふうに思います。それではちょっと 5 分間ぐらいで自己紹介の時間にしたいと思います。ではお願いします。

(各班で参加者交流)

生涯学習課菊池

はい、どうでしょう。大体 5 分ぐらい経ちましたけどオッケーですか。はい、ありがとうございます。それでは、自己紹介の時間、これまでというふうにしたいと思います。すいませんちょっとここです、ぜひ質問したいということがありました。

質問者

今回で 4 回目ということで、毎回出席して勉強させていただいていますけれども、若干、あと 1 回残す、今の段階になってですね、このワークショップは一体何を指して道に向かってるのかということについてですね、ちょっとわからないところがあつてきたと。それと、10 月 1 日号の広報はなまきにですね、図書館の基本計画の素案づくりが、10 月初めからスタートするという、ものが載ってるんですけども、果たしてこのワークショップと市民参画の中でどういうふうに位置づけられてるのかというのは、ひとつわかりません。それでですね、具体的に提案というかお願いですけども、今、花巻市議会で図書館の特別委員会というのが、つくってるわけですけども、あるいはいろんな図書館問題の市民運動も起きてますけれども、そのきっかけになったのがですね、実は 1 月の 29 日に上田市長が、公表した新花巻図書館複合施設整備事業構想というものがあまして、これがきっかけでですね、議会のほうも動く、あるいは市民運動も立ち上がると、いうことがあるわけですけども。ところがこの市が公式に発表した構想案なるものがホームページにも一切載っていないと。新聞には載って、議会にも説明し、あるいは記者会見ですか、記者会見でも発表し、市長が市政の方針演説でも詳しく述べてる、いわゆる 1 番新しい案、これ市の当局は最善の案だというのが 1 番新しい図書館の構想なわけですけども、これが僕らのワークショップに資料として一切提出提案されていないと。これは実に摩訶不思議な話ですね。花巻市当局は、これが最善の図書館案であるというそういう、いわゆる公文書が闇から闇へ葬られて、僕らの手元にないんですよ。私だけ折りあっていろいろ調べて知ってますけどね。ここに出席してる人たちが果たして今問題になっている、市が出した構想案なるものをですね、知ってるのかどうか。あるいはその構想案がどういう政策理念によってですね、出てきたのかどうか。それを知らないまま、僕らここです、図書館の理想論を幾ら語ったって。語ることは大変重要です。僕も勉強になりますけれども。つまり 1 番肝心の図書館論議のきっかけになったですね、1 番新しい資料は全く提示されないままこのワークショップが進められていくと。しかも、あと 2 回

残すんですよ今日入れて。それが終わらないまま、計画の素案づくりに着手するというスケジュールがですね、広報はなまき 10 月 1 日号に載ってるわけですよ。ですから、次回最終回までにですね、その原資料を参加者に全部配っていただきたいと、事前に。かなりね、資金計画から、場所はもうご存じの方もあると思いますけども、賃貸住宅つきの駅前立地という案ですよ。それで、資金を調達するとかですね、どこに頼むのか、委託先はどうかということですね、事細かく書いてある資料、幻の構想なんですよ、がありますんで、それをぜひともですね、結構難しい内容なんですね、事前に、だから、2 週間後に間に合う、勉強できるようにですね、事前に配っていただきたいと。それで、市のほうがですね、英知を結集してですね、これが最善の案だというならば、ひょっとすると最善の案なのかもしれないですよ。それも含めて議論すべきじゃないですか。市が本当にみんな頑張ってますよ、案を、早川先生も多分噛んでると思うけども、そういう英知を結集したですね、案が出てないってのはおかしいんで資料として、事前に提出をしてください。そしてその幻の構想案というんですか。市のほうで英知を結集した最善の案は、どこが最善なのかですね、僕らもっと議論しようじゃないですか。いい図書館を作るため、そういう提案をしますんで、よろしくお願いします。

生涯学習部長

はい、ありがとうございます。今年の 1 月 29 日に、駅前のタケダスポーツの場所に、図書館をつくって賃貸住宅とテナントを入れて、図書館との複合施設をつくりたいという案は、市議会に初めてそのとき公表をしたというものです。これにつきましては、2 回目のワークショップのときに、候補地をこれまで考えてきましたということでお話をして、その中で 1 月のその複合施設の案を少しお話をいたしました。今のご意見はもうちょっと詳しくですね資料を出してほしいということだと思うので、次回、その詳しい資料を準備できれば出したいと思います。2 回目でお話ししたとおり、いろいろ候補地を考えた中で、一長一短ありまして、まなび学園周辺、あと駅前、駅前はタケダスポーツの場所と駐車場の場所と、あと、まなび学園周辺はまなび学園の前と総合花巻病院の場所、営林署跡地の場所、ただ、やはり敷地の面積とか駐車場とか道路とかの課題があって、一長一短あるというようなお話をしたと思っておりました。

質問者

そうやって説明するんじゃなくてね、原資料をね、みんな見ないとわからないでしょ。僕は持ってますよ。

生涯学習部長

はい。資料を次回出しますので。

質問者

次回って、事前にね。

生涯学習部長

はい。

質問者 おかしいからこれ。資金調達をどうするとかね。

生涯学習部長 はい。事前にお配りいたします。ただそれは、2回目にお話ししたとおり、決まったものではありません。決まったものではなくて、中身もまだ具体的に決まってるものじゃない、金額も決まってるものではございませんので。

質問者 当局は最善案だと思ってるんでしょ。

生涯学習部長 そうです。

質問者 最善案を出して。出すべきじゃないのこれはちょっと。

生涯学習部長 2回目に説明いたしました。それでは、もうちょっと詳しい資料をお配りするようになります。

質問者 それと市民参画スケジュールもきちっと出して。広報に載ってるじゃん。なんかわけわかんない。

生涯学習部長 はい。これまでも申しておりますけど、皆様のご意見とかアイデアを踏まえて、基本計画の素案をつくりたいというものです。広報10月1日号に載ったスケジュールでいきたいとは思ってるんですが、なかなかやはりアイデアがまとまらないとか、場所についても、ある程度、数か所、絞ってくってという関係もありますので、予定どおりいかない可能性もあります。ただ、この10月1日号の広報に載せたようなスケジュールを考えているものでございます。ということで、資料も事前にお配りしますので、それについてもご説明をしたいと思います。はい。よろしくお願いいたします。

生涯学習課菊池 はい。ありがとうございます。ちょっとお時間ちょうだいしました。ありがとうございます。それではですね、改めまして、すいません、本来のといいますか、今日の予定のワークショップのほうに移らせていただきたいと思います。早速なんですけど、今日ですね、作業を説明したいと思います。今日の作業ちょっとすいません、説明も長くなります。前回ですけれども、2回目に出た意見やアイデアから、班ごとに、まずは重点を導き出してもらいました。その重点から、今回は、その重点に引き寄せながら、新しい図書館に必要なサービス計画や、サービスの内容について、細かい作業になりますが、文章化するという作業を皆さんに考えてもらいたいというふうに思います。何でそんな細かいところまで作業をしてほしいかと言いますと、新花巻図書館基本構想に書かれている、前段ですって書かれてる部分が

ありますが、「新図書館の必要性」というふうに書いてる部分があります。そこには、「生涯学習の拠点施設として、図書館の役割がますます重要視されるようになってきた今日、知識の向上や心の豊かさを求める市民のニーズに的確に対応できる機能を備えた新しい花巻図書館の整備が求められます」というふうに書いています。つまり今回は、市民ニーズに的確に対応できる機能というところに着目して、図書館が運用されている姿、イメージが想像できるように、文章で見える化していきたい、ということです。なおなんですけど、先ほどご質問もありましたけども、次回第5回につきましては、皆さん、図書館のですね、建設場所についても、検証とか検討してもらいたいという部分も、事前に考えてございましたので、各班で考えている図書館がどこにあれば、機能を発揮するかといったところにもつなげるためにも、今回の作業が大事なというふうに思っております。では、ちょっと具体的な作業ですが、前回導き出した重点、そこに引き寄せながら、基本構想の項目に沿った中身で、サービスを考えるということなんですけど、スライドのほうにも映してまいります。まず準備するものです。一つ目が、第3回で作成した重点。それと、基本構想内の項目、項目だけなんですけど、各テーブルのほうに準備しております。テーブルファシリターの皆さん、ありますか、A3で、項目だけのものを準備しております。作業例ですけども、まず1つ目です。まずは、重点の中から、文章化してみたい項目をまず1人一つ選ぶわけなんですけど、もちろん複数選んでいただいてもオーケーです。例えば、今、6班の建物、環境・施設・家具の中から、「利用しやすい」という項目がありまして、さらにその中に、「文具購入」というワードがありました。ここから、どんなサービスが考えられるか、私なりにちょっと考えてみました。ちょっと赤文字で書いてましたけども、「カフェスペースのほか、文具など、提供可能な店舗スペースを設けます」といったようなサービスが考えられる。というふうに考えておりました。この文章だけで、この図書館にはカフェのほか、店舗スペースもつくるんだというイメージが想像につなげることができるんじゃないかなということです。さらに、ついでという感じでいいんですが、基本構想内ではどんな項目に当てはまるかというの、考えて選んでみます。あります。基本構想内では、「施設の併設等を検討」とか、「利用者の視点」、とかに当てはまるんじゃないかなというふうに考えました。もう一つ紹介したいと思います。作業例、2つ目です。例えば、4班の例で考えました。4班には、「困ったときは図書館へ行こう」という重点が、ありまして、ここからどんなサービスが考えられるか、というのをちょっと考えていました。また赤文字で書いてましたが、「困った人専用のカウンターを設置して、何でも聞きます担当を配置します」といったようなことを考えてみまして、こういったサービスを考えておりました。この文書だけで、この図書館には、とにかく相談に乗ってくれる人がいるんだというイメージができるんじゃないかなというふうに思います。それから、基本構想内ではどの項目に当てはまるかと言いますと、「広い分野の収集」とか「レファレンスサービス」に当てはまるのかなというふうに考えました。3つ目です。ちょっと、3点ほど考

えたのもう1つ、ご紹介します。作業例3ですけども、ここではちょっと考えが変わります。例えば、2班の中にあったんですが、「特に学生が調べ学習や、資格、進路選択に使えるような資料がたくさんある」という重点がありました。ここからどんなサービスが考えられるかなというところなんですけども、ちょっと無理やりなところもあるんですけども、こう考えました。「学生向けコーナーを設置して、利用者のニーズを調査しながら、資格や進路に関する資料の充実に努めます」ちょっと長いんですけども、同じような言い回しなんですけども、こういったサービスが考えられるんじゃないかということで考えました。先ほどから、なぜ、基本構想内の項目にわざわざ当てはめて考えているかというと、基本構想、今できてる基本構想内では、もしかして項目が足りないのではないかと、ということもあってですね、ここでは、「学生向け」というところに、ちょっと視点を当ててみまして、蔵書、資料に関することの中に、一つ項目として、「ティーンズコーナーの充実」という項目を増やすこともいいんじゃないかという、必要なのではないかというものも考えたということになります。サービス内容を考えるわけなんですけども、その上で、足りない項目も出てくる可能性もあるということで、もしかして、基本構想内の項目自体も、構想に足すわけではないんですけども、今度の基本計画のほうに載せるということになるかと思うんですけども、そういうことで、そういった項目を足すということもありかなと。思いまして考えたとなります。

こういったような作業を皆さんにやってもらいたいというわけなんですけども、では、ここで考えた文章はどのような感じで、活かされていくのかということまで説明したいと思います。花巻市では、基本構想をさらに詳しくした、新花巻図書館整備基本計画の案をですね、素案をつくっていききたいというわけなんですけども、こんな感じに入れたいと思っております。ちょっとスクリーンのほうに映しておましてこんなイメージっていうところなんですけども、基本計画の中に、細かい文章にして載せていきたいんですけども、例えば「運営に関すること」というのが、構想内にあるわけなんですけども、そして、この四角い箱で囲んでるところが、基本構想に書かれてる部分ということになります。さらにその下に、今回、皆さんに考えていただくようなサービス計画という部分が載っているんですけども、さっき考えたものが、こんな感じに、計画の中に入っていきたい、というイメージです。ただしなんですけども、皆さんで今回考えてもらったサービスはそのまま基本計画に掲載されるかというのを保証するものではありませんので、そこはご了承いただければと思います。しかし、アイデアとしては十分に活用していききたいということになりますので、しっかり考えていただければ嬉しいなとなります。

こんな感じで考えてもらおうということなんですけども、本日も前半と後半、二つに区切ってですね、作業を行っていただきたいというふうに思います。前半のワークでは、まずは1人でそのサービス、文章をですね、考えてみまして、さらに、皆さんに発表をして、みんなで、ちょっとこう文章、校正って言いましたが、こういうふうにしたほうがいいんじゃないのっていうやり方をやっていただいて、後半のワ

ークでは、前半に考えた文章をさらにブラッシュアップしていただく。そして、発表用にまとめるという作業をしていただきたいと思います。それから休憩ですけども、前回、全体的に特にしっかりと休憩の時間をとりませんが、班ごとに休憩を入れていただきたいなというふうに思います。目安としましてはワークショップその 1 その 2 の後半 10 分間ぐらいと考えていきますので、そこで休憩していただいてもオーケーですし、作業してもオーケーという形にしたいと思います。こんな感じの説明ですが、ここからはちょっとテーブルファシリの皆さんに、おのおの進めていただきながら、作業としたいと思います。まずは、「1 人で考える」からスタートしていきたいと思いますが、テーブル毎によろしいでしょうか。はい。それでは、作業をよろしくお願いいたします。

(一人で考える)

生涯学習課菊池

はい。大体これで 10 分ぐらいの間隔であります。これで大体 10 分経っております。

(班内で発表)

生涯学習課菊池

今、時計は 10 時を過ぎております。自由休憩の時間、10 時 20 分くらいを目安にしたいと思います。自由休憩の時間は 10 時 20 分くらいを目安にしたいと思います。

(班全員で考える)

生涯学習課菊池

皆さん、作業をしてると思いますが、10 時 20 分になりましたので、ここから自由休憩の時間にしたいと思います。10 時半まで、10 分間自由休憩です。作業を続けられても構いません。10 分間自由休憩の時間としたいと思います。

(班ごとに休憩・作業)

生涯学習課菊池

それではすいません皆さん、作業中のことと思いますが、ちょっと休憩なんかも挟みながら進めてきたわけなんですけども、ちょっとここですね、すいません、早川先生のほうから、ちょっとワンポイントアドバイスいただこうかなというそういう時間にしたいと思いますので、先生のほうにご注目をお願いいたします。では先生、お願いします。

富士大学早川教授

はい、それでは私のほうからですね、皆さんの話を聞いていて、こういうふうなアイデアを話してる方がいました。図書館で防音機能付きの個室をやっぱりつく

ってもらいた。で、広さはどのくらいがいいのか、数はどのくらいがいいのかって
いう話をしているグループがありました。そのときに今、皆さんがこうやっている
作業っていうのは例えばそういうところからこういうことが導き出されるかなと
思います。図書館は個人の価値を尊重します。個人の価値を尊重した図書館を目指
します。そのために 10 個ぐらいの 20 平米の防音つきの個室を設けていきます。
というようなふうにと考えると、ちょっと考えやすくなっていうふうに思います。
後半の作業でも、それをですね、継続していくというような、皆さんのグループ、
非常に私も毎回感心するばかりなんですけども、そういうふうに出てくるところが
ほとんどですからですね。そういうふうな形で進めていくと進めやすくなって
いうふうに思います。

あとはですね、このワークショップの重要性、皆さんに毎回教えていただくこと
が多いんですけども、これから具体的なサービス計画に市のほうでは入ります。
で、ですね。今、最新の声を皆さんから聞いているというふうに私はとらえていま
す。歌を詠む人の世界で不易流行ってというふうによく言われるんですけども不易
っていうのは、従来以前から変わらないもの、これから先も変わらないだろうと思
われること、流行っていうのはですね、図書館に引き寄せて考えれば、要するにこ
れから先、あとは今求められているもの、こういうふうになっていくだろうという
機能を、今の時点で考えないと、施設、建物は 1 回つくってしまうと前にも申し上
げましたけども、もう何十年も使っていくわけですね。ただ、皆さんのような声
が反映された建物が実現されていけば、いろんなソフト面での事業展開が可能に
なるんじゃないかなって、私は皆さんの話を聞いていて思っています。

以上ですね、図書館はつくって終わりではなくて、皆さんの声を図書館がつくら
れた後も反映させていけば、図書館は成長する有機体であるというふうに言われ
ますけども、そういうふうになっていけるのではないかなと考えてますので、その
ように考えられて進めていくといいかなと思います。各グループでですね、そのチ
ャレンジショップとかですね、いろんな可能性を提供できる図書館にしていきたい
って幾つかのグループで出てましたけども、まさしくそのとおりかなと思います。
可能性を提供できる図書館っていうのはすごい素敵だなと皆さんのお話を聞
いていて感じました。私からは以上です。

生涯学習課 菊池

はい。先生、ありがとうございました。それでは、後半の作業ということに入っ
ていきたいと思います。前半の作業からですね、引き続きスタートという形になろ
うかと思いますけども、引き続きサービスの中身を確認しながら意見を広げてい
ただきたいなと思いますし、余裕のあるところはどんどん追加していただきたい
なという気持ちでありますが、今回の作業は、たくさん出てくれば出てくるほど、
それだけ充実したサービスにつながるというふうに思っております。次ですね、ス
クリーンのほうにも出しておりましたが最初 30 分間ぐらいまた引き続き作業
を続けていただいて、最後 20 分ちょっと、あくまでも目安ですので、各グループ

にお任せしますが、こういった感じで、発表用に整理していただくというような感じにしたいと思います。次の休憩の目安なんですが 11 時 20 分ぐらいにしたいと思います。11 時 20 分から 10 分間ぐらいまた自由休憩の目安にしたいと思いますので、後半の作業どうぞ始めてください。お願いいたします。

(各班で作業)

生涯学習課菊池

はい、後半の作業、半分くらい時間が進んでおります。後半の作業ですけども、半分くらい時間が進んでおります。ただいま 11 時です。

(各班で作業)

生涯学習課菊池

はい。11 時 20 分になりました。20 分経ったところですので、自由休憩の時間にしたいと思います。引き続き作業をしていただいても構いません。11 時 10 分の自由休憩となっております。なお 11 時 30 分から発表、発表の作業に移っていきたいと思いますので、休憩しながらまとめながら、発表の準備、それから発表者の方も、どなたかお願いしたいと思いますので、心積もりをお願いいたします。自由休憩の時間に入りたいと思います。

(各班休憩・作業)

生涯学習課菊池

はい。それでは皆様、11 時 30 分となりました。11 時 30 分となりました。発表の時間に移らせていただきたいと思います。今回ですね、ちょっと難しかったというところがあると思います。市民ニーズに的確に対応できる機能と、そういったものを考えるような、作業していただいたわけなんですけど、ちょっと難しかったかなというふうな印象があります。そこで、各班 3 分ずつぐらいでですね発表していただきたいわけなんですけど、多分たくさん出来てくると思いますので、自信作から、発表していただければいいのかなと思います。よろしいでしょうか。どこか最初に発表したいというところありますか。はい。5 班が 1 番最初に手が挙がりましたので、5 班のほうから発表をお願いしたいと思います。

5 班

5 班です。お願いします。デジタル化の推進は、市民に広く開かれた知の宝庫を目指すために、ロボットやタブレット等の最先端技術を用いて、利便性向上を目指します。で、二つ目、電子、電子図書館を開設し、蔵書にどこからでもアクセスできるようにすることで、多様なニーズに答えます。三つ目、ロボット等ができる仕事は任せることで、図書館職員の仕事能率向上、そしておもてなしの向上につなげます。以上です。

はい、2 番。花巻を知るスタートの場にする。観光、市民生活、産業、歴史等花

巻市を知るための情報の収集提供に努め、図書館から広がる花巻市を実現します。

次は、24 時間対応の予約本の受け取り返却や夜間対応できる学習スペースを設けます。

外国人の交流スペースの設置や情報提供など、多文化共生に努めます。はい。

では、チャレンジできる場チャレンジショップ含め発表の場であったりという、運営サービスを高めることを言い換えました。あらゆる世代の市民が集い、学び交流し、明るい地域をつくるために、図書館の存在自体を大きな機会、チャンスととらえ、教育機関、産業、文化、地域団体と連携し、その多様性を発信発展する開かれた場を提供します。以上です。

来やすい立地についてです。広い駐車場のみならず、バスや電車などでも来やすいように、公共交通機関と接続して、アクセスしやすい立地とします。以上です。終わります。

生涯学習課菊池

はい、発表ありがとうございました。今みたいな感じで、重点を言ってから、中身を言ってもらおうということだと思います。聞いている皆さんは、さらにどんなことがイメージできるかなあというのを考えながら聞いていただければいいのかなと思います。続きましてはどの班行きましょうか。若干 1 班が早かったのではありません 1 班からお願いします。

1 班

1 班です。後世に受け継げるよう地域ならではの資料の充実を言い換えると、後世に受け継げるように、他施設との連携を密に行い、市民の人材を生かし、地域ならではの資料の充実を図ります、に言い換えました。

ちょっと詳しく言うと花巻市は図書館だけではなくて博物館もありますし、イーハトーブ記念館だったり、賢治記念館だったりあるので、そこと常に連携をしかえるようなオンライン環境なんかも整えつつ、皆様のレファレンスにも、すぐに対応できるようにしたいという気持ちも込めまして、あとは市民の人材っていうのは、地域の歴史なんかはものすごく詳しい市民の方たちがたくさんいるので、その方たちにも参加してもらって、資料の充実を図りますということです。

次にオンライン関係の充実を言い換えました。多くのニーズに合わせて、オンラインでの利用ができるように、高性能なWi-Fiの設置と、家にいても図書館に行ってもスマホやタブレットを利用して、電子書籍などの資料の閲覧ができる設備を設けます。

あらゆる人にとってアクセスしやすい開館時間ということで、学生にはテスト期間に合わせる、社会人には勤務時間に合わせるなど、市民のニーズに合わせた、利用しやすい開館時間に配慮した図書館にしたいと思っています。

老若男女、家にいるような感覚で利用できる、を言い換えると、老若男女が家にいるような感覚で利用できる多空間な部屋がある図書館を目指します。あとこれ、項目に新しく A-8 っていうのをつけ足して、「ティーンズ向けスペース」って

いう項目を新しくつくり出しました。

最後なんですが、地元企業と若者をつなげ地域活性化に発展させる図書館、とは、職業体験やチャレンジショップを開催するなど、若者を地元企業とつなげ、地域活性化への発展を目指します。これは例えば、塾の先生とか教師志望してる大学生が図書館に来て、高校生に何か今日は科学とか物理とか、物理基礎とか、教えてくれる何かイベントがあれば、高校生にとってすごく嬉しいかなと思って、私はこれはすごい意見だなと思いました。これも新しく C-5 っていう項目を作り出して「地元企業団体との協働」っていう項目を新しくつくり出しました。以上です。

生涯学習課菊池

はい、ありがとうございます。新しい項目まで足してもらったということで、はい、嬉しいです。ありがとうございます。次に 2 班さん、お願いいたします。

2 班

それでは 2 班発表いたします。開館時間と日時なんですけれども、開館時間は朝 6 時から夜 22 時までとして、様々な市民が利用しやすい日本一の開館時間を実現します。ただし、朝 9 時から 17 時までは図書館司書が対応いたします。また 6 時から 9 時、17 時から 22 時はセルフ対応とします。休館日ゼロを目指すために、今やってるんですが、蔵書点検を深夜の外部委託を行い、また本の持ち出しで紛失がないよう、セキュリティを強化いたします。

はい。賢治の精神をもとに誰もが学びやすい資料ということで、花巻を訪れた旅行者が立ち寄って多くの偉人をワンストップで見たり、知ることが可能となります。ただし、宮沢賢治記念館、新渡戸記念館、高村光太郎記念館、博物館との役割連携を分担します。それから、賢治の本は、ここに全てあるというふうな位置づけにしたいと思います。

はい、重点が多かったのでまとめました。まず全国の手本となる、身障者や外国人にもわかりやすい使いやすいユニバーサルデザインということで、利用者の年齢に応じて、本棚の高さを変え、利用者別の空間、キッズコーナー等ですね、計画して、利用者層の向上に努めます。それから、お年寄りや身障者等でも利用しやすいように、通路幅を広くして、要所要所に休憩ができるように、いすを多く配置したいということで意見が出ております。

それから、長時間利用に関しての重点だったので、長時間利用を考慮して、Wi-Fi、強い Wi-Fi ですね、完備するとともに、休憩できるカフェスペースという意見もありました。

図書購入ですね、ができる周辺書店等と提携したオンラインショップを設けて、すぐに本を注文できる環境を整えます。

それから、周辺環境に合わせた賢治世界を感じられる建築ということで、項目がなかったので、A-8 としまして「花巻らしさ」ということ。項目をつけたしました。そして、内容は、SL が見える 1 番のスポットとして図書館を整備し、賢治の世界、作品をモチーフとした花巻らしい図書館にしますという意見です。

どの世代にも刺さるいろんなジャンルの本があるというところから資格や進路に関係する資料や、芸術関係などの実用的な本、ライトノベルや雑誌など、世代のニーズに合わせた本を設置します。

利用者が選書した本を紹介するスペースを設置して、利用しやすく資料をリクエストしやすい環境を整えます。

誰でも使いやすい検索機とタブレット貸出しという項目で、館内の案内のわかりやすい検索機やタブレットを設置します。情報コーナーを設置して、本や図書館に関する情報のほか、地域、市民や民間の団体などと、イベント、文化施設関連の情報発信の強化に努めます。こちらが情報の強化のあたりです。

学校図書館との連携と学校司書の導入ということですが、まず学校図書館司書と公共図書館の司書はちょっと違ってくるのでそこを別のものと考えてください。学校図書館にはない資料を図書館やほかの施設から貸出しし、授業に活用してもらいます。学校図書館で貸出しや利用の仕方、マナーなどを覚えることで、図書館の利用にもつながります。また学校司書がいることで、図書館司書との連携も深められます。学校司書を配置することで、児童生徒の本に対する興味を引き出し、教職員の授業補助、図書ボランティアとの活動をスムーズにし、地域のボランティアとの連携も深めます。まず学校司書を1人、1校配置します。授業の長期休業など調べ学習に対応するデータブックリストやパスファインダーを学校司書と協力し作成します。項目で、ちょっとこの地域との連携というのがなかったので、Dで「地域の連携」というのは入れました。

それから、賢治の朗読会や花巻にゆかりのある人を出すなど、オープニングセレモニーを派手にするという。オープニングイベントは前例にこだわらず、学生などからも意見を集めながら全世代が興味を持てるようなアーティストを、お招きします。例えば、声優の桑島法子さん、賢治の朗読会よくやられてます。それから、花巻出身の俳優で松村龍之介というのがおります。まだ地上波はそんなに出てはいないんですが2.5次元俳優で今出てます。あと、聖火ランナー、あれのこの花巻を走るのにも選ばれてますね。こういった方々をお呼びしてやる。それからシンガーで伊藤歌詞太郎さんという方が今動画のほうかな、そちらのほうで賢治のイメージした作品を出していますので、こういった方々も、お招きしたいと思いますので、Dのこれも「イベント」という項目です。それからどんな人でも参加できる各種イベントを開催するということで、年に1回このオープニングイベントがあった後も、年に1回アニバーサリーイベントとして、このオープニングイベント規模のものを開催します。それから全世代が興味を持てるような、もうちょっと小規模な会、イベントも開催します。それから花巻の市民講座などで、学ばれた方々の発表をする場としても、そういうイベントを開催します。2班以上これで終わります。

だいたということでありありがとうございます。次はどこ行きましょうか。はい、6班早かったので6班にお願いします。次7班に行きますから。お願いします。

6班

6班の発表を始めます。6班の本、資料、情報に関するサービスについて決めたことなんですけれども、まずデジタル化ということで、専門的な資料、データ、ふだん見ることが出来ない、貴重な資料が保存出来て、アクセスがしやすいよう、デジタル化して提供しますということで一つ目です。

二つ目、こちらでもデジタル化の続きになります。読み上げ機能や拡大機能を含む、障がいがあっても、誰でも閲覧できる形で資料を提供するというサービスを決めました。

はい、次ですね、本、資料、情報三つ目、市民活動、イベント、観光情報など、市民の生活に役立つ情報を収集し、チラシ、パンフレット、SNS、広報、図書館だより等様々な媒体で広く発信しますというサービスを決めました。

次ですね、次が運営・サービスについてです。6班は、みんなが利用しやすいということがまず重点でありましたので、サービスに関しては誰でも利用できる、行けば何かできるっていうところから、行ってみたいということで、児童生徒への学習支援や求職者への就活支援、また外国籍の人への学習や生活支援、あとは、スマホやPC教室といった情報を提供して、さらにこうした支援を行う団体と連携します。というのを書きました。

次に、建物、環境、施設、家具についてです。多目的というところから、誰もが利用できるギャラリースペース、音楽スタジオ、ステージやマーケットとして使える広場、あとは会議室やWi-Fi、プリンター等備えたコワーキングスペースを設定します。

目的を制限せずマルチに活動できる滞在しやすい図書館ということで、会話やミーティングをしたり、子供と利用できる個室スペースや、幅広い年齢の方に余暇やリラクゼーションのために利用していただける感覚統合室を用意し、長時間滞在したくなる空間を提供します。

1項目からカフェってのをつくりましたけども、様々な特性のある、例えば、障害を持ってる方とか、そういった方もみんなが利用出来て、しかもあとチャレンジショップとしての機能を持ったカフェ、例えばですけどもオリヒメっていう、家で寝たきりでも、目線を動かせば自動で動いてくれる分身のロボットがいるカフェがあったりするんですね。そういったテクノロジーを使いつつ、あるいは、例えば常設として金はあるんだけど、この日は全然違うところがカフェを運営していたりとか、日替わりカフェ、週替わりカフェみたいなのがあったりすると飽きも来ない。いろんな人が関われるカフェとして、たまにカフェ自体もちょっとお休みするけどその日は自販機でごめんねみたいな感じでちゃんと働いてる人に休みをとりつつ、そういったいろんな機能を持ったカフェを併設するということを考えました。

もう二、三個あります。これですね、マルチに活動できるっていうの中のユニバーサルデザイン、ICTという重点から一つ、トイレやエレベーターなど、ユニバーサルデザインの施設を使いやすい位置に設置しますということを決めました。よくある施設ではユニバーサルデザインに配慮出来てるんだけど、エレベーターとかトイレとかが端っこにあって、そもそも行きづらいっていう問題点があるので、これを決めました。

それからもう一つ、障がいのある方とのコミュニケーションを補助する、ICT機器を提供しますというサービスも決めました。

それから次が、文具を購入できるようにするっていう、重点からなんですけども、館内に物販を行う店舗を併設し、道具や図書館オリジナルグッズ、雑貨の販売と書籍の注文を行えるようにしますというサービスも決めました。以上で6番の発表を終わります。ありがとうございました。

生涯学習課菊池

はい。6班にたくさん発表をいただきました。ありがとうございます。続いて7班の発表をお願いいたします。

7 班

7 班の発表を始めます。まず初めに、間仕切りできる学習スペースについてです。個人利用だけではなくグループ学生にも対応できる設備ということで、利用者のニーズに合わせて変更可能な空間づくりということで、可動式の机や仕切りの扉、ホワイトボードを置いてくれたら、とても発展したものになるのではないかという考えです。

図書館ライフワーク、専門家、子供・中高生・大人までという視点です。生涯を図書館と関わる各年代に向けて発信する。これは子供から高齢者まで、年代ごとにコーナーをつくる。そして、選書などを専門家、司書に相談できる、ということでこれらのライフワークを通して、次世代、未来への芽を育むということを目指しています。

はい、三つのことをまとめてみました。誰でも受入れ、誰にでも優しいっていうポイントと、引きこもりや不登校、外国人、障害者などの居場所というポイント、それからフリースペースというポイントをまとめてみました。児童書コーナーのほかに、様々な体験ができる広いスペースをとるっていうようなこと、それから、絵画や音楽、舞踏など、本と多様な文化の交流ができる場ということ。それから、ちょっとした立ち寄りスペース、リフレッシュができるスペース。いわゆる図書館というところで、本に関わったり本を貸していただきたいっていうような、それだけじゃなくって、フリーなところの、居眠りもいいよ、ちょっと長居してもいいよっていうような気軽なスペースが欲しいなっていうところを考えています。フリースペースってよく私たち口にしますが、そのフリーっていうところは、何っていうところをちょっと思ったときに、縛られないんだよね、利用者が望む使い方していいんだよねっていうところをちょっと考えてみた

ころです。図書館とはちょっと違うかもしれませんが広げた感覚でとらえてみました。

ユニバーサルデザインについて考えました。全ての障がい者、身体・視覚・聴覚・精神・知的など、そういう障がい者のニーズに対応すること。それからそういう障がいの専門施設との連携を充実させサポートすると考えました。

賢治塾・歴史を大事にするという視点から考えました。賢治さんの香るまちづくりという、市の方針がありますが、賢治さんや、ほかの偉人たちの講座紹介、イベントを日常的、定期的に市民レベルで充実させて、全国の賢治の学校ありますがその中心的存在になるということ。花巻市史とか地域づくりを市民が行うことで、これを支援するということで、歴史に親しみのある、人づくりというのを図書館が支援するという観点です。以上で7班終わります。

生涯学習課菊池

はい。ありがとうございます。次は、3、4 どちら行きますか、どちら行けますか。4 班先どうぞと言ってますけどいけますか。はい。さっきまでぎりぎりまでかかってる中まとめたたようですので、出来たてはやはやです。ちょっとお待ちください。

4 班

4 班は前回重点としてまとめた本・資料・情報、運営サービス、建物施設、環境家具の中から、それぞれの項目を具体的により意見を出していきました。

まず1 番の本・資料・情報について、その中の知りたい、調べたい花巻のことということについてですが、まず具体的には、市で発行している広報や雑誌のバックナンバーをしっかりと管理、皆さんが読みやすいように整理することで、もっと花巻のこと、いろいろな情報にアクセスできるようにするという事です。

あとは、様々な専門機関、団体の情報や人とのつながりをつくることによって、花巻の本以外の人としての資料っていう情報にも皆様がアクセスできるようにするという事です。あとは、そういった団体、NPO 法人などの人が定期的にいらっしゃるということで皆さんが相談しやすい環境をつくるっていうことが挙げられました。

あとはいろいろな資料があるということで、前回、耳から入る資料や外国語の資料を充実させるっていうことがありましたがこの中で大事なのが、利用者の必要としていること、欲しいっていう気持ちに優劣をつけず、例えば漫画といった本もしっかり大切な資料として、利用者のニーズに応えていくっていうことが挙げられました。

これらの資料について、みんなが知りたくなるような情報発信をしっかりとし、バラエティ豊かな蔵書を構築していきます。

次に、2 番運営サービスについてですが、特に4 班の中で意見が出たのが、正規の司書、専門技術を持った職員をしっかりと配備するという事です。正規職員

の充実についてですが、開館時間の延長ということが、やはり挙げられました。その中で職員をしっかりと配備して、2 交代制にして、朝、夜と開館時間を長く、できるような体制をつくるということ。

また、分野ごとに専任の司書を配置して、よりその図書館でのサービスを向上させます。更に、学校図書館にも司書を配備して、学校図書館と公共図書館との連携を強化します。

あとは、ボランティアの参加ということも意見として挙げられました。市民の方にもそれぞれに得意分野、得意な技術というものがあって、それぞれでの得意分野を生かして、図書館の運営に参加していただく、そういった形で図書館に関心を持っていたり、発達障害を持っていても例えばものすごく正確な作業ができるという方もたくさんいらっしゃいます。そういった方が活躍できる場っていうのを図書館からつくっていただければいい、つくっていききたいと思います。

あとは運営、出張図書館について、駅の中やイトーヨーカドーなど、人の往来があるところにミニ文庫を置く。そのほかにも各地区の振興センターやなんプラザ、文化会館にも置いて、図書館の皆さんの入り口となって、利用者がより図書館を身近に感じていただけるということを目指します。

最後に、建物・環境・施設・家具について考えてみました。まず、出たのは自然豊かでくつろげるスペースにしたいということで、利便性の高さを備えながらも、中庭や緑のカーテン、広いスペースを設置し、足の向けたくなる施設を目指したいと思います。また、図書館の内装であったり、デザインに宮沢賢治の童話の世界観だったりを取り入れて、機能性だけではなくくつろげる空間にしたいと思います。また、建物内に一時的な災害に対応できるスペースをつくることで、みんなが安心して過ごせる施設をつくります。また、図書館プラスアルファの施設ということで、子供食堂のような機能を持つ空間をつくることで、どんな人も安心して利用できる、暮らせるそういった施設を目指します。4 班の発表は以上です。

生涯学習課菊池

はい、新たな発想も加えて考えていただきました。ありがとうございます。では最後 3 班発表をお願いします。

3 班

3 班最後ですみません。今回新たにメンバーに加わった方もいるのでちょっとストーリーが見える感じで今お話をさせていただきますので、マイク順番にまわすのでお聞きください。

花巻市民だけでなく、花巻に来るほかの人たちが勉強滞在できる場所を増やす、その広い場所をつくるで、例えば三階建てとして、1 階は勉強カフェなどのフロアにして、2 階は本など、3 階は本や e スポーツができる場所をつくろうと考えました。

防音の個室、お話も静かさも対応ってということで、人数や用途に縛られず、様々なニーズに柔軟に対応できる約 20 平米の防音、水道、ガスつきの個室を 10 個くらい、複数つくりますってことです。

おにぎりのようなですね、つくりたての温かい食べ物を提供する店舗を設置して利用者の食と健康をサポートしますということで、ただ、買ったり売ったりするだけでもなく、例えばやりたい人、売りたい人が売れるような、つくりたい人がつくれるような場所とか、そういった形で社会参画ができるような場所とか高齢者の方とかであれば生きがいになるような場所としても活用できるようにしていきたいと思います。プロテインとかも売のものかもしれません。

皆さんの班で、宮沢賢治の資料のお話はたくさん出てたんですけども、3 班でも出まして、その中で、賢治の本をそのまま観光資源として、活用していきたいっていう花巻市のまちづくり人づくりの循環の起爆剤として宮沢賢治の資料を、世界一の資料を集めながら、花巻市から発信していきたいって話が出ました。

建物と環境と施設と家具のテーマなんですけど、外と関連性のある人と本が光る美しい開放的で洗練された配置、配架、照明等ってことの具体ということで、先ほどいろいろなソフト、こういう目的のためにこういう調理施設とかで、いろいろボランティアが来ておにぎりが入っていったって、賢治の本の観光資源を売っていくよっていうところが、どんな場所かなっていうことをちょっと考えてお話ししたいと思いますけども、外と中が一体空間で外の美しさですね、木陰や芝生があって、大体オガール広場で 1500 m²くらいあるんですけど、そこに電気や給排水、Wi-Fi、照明もしっかりある、そういった広場空間と、軒下やテラスで、つながりながら室内がしっかりやると。広さっていうのは一関で 4500 もあるということなんですけれども、本は集中させたところにあったほうがいいなと思っていて、ワンフロアでいいから集中したスペースがあってあといろいろなそういった多目的なスペースと、にじみ合えるような室内空間がいいなと思います。四季の美しさを感じながら、本と人がもうすごく輝いている、そういった光の照明とかデザインがあるし、あと見通しも死角がないこと、見えないところがないこと、それから圧迫感がないこと。共有できるスペースと 1 人でいられるスペースも共存させてあげられる。そういった外光、室内の一体感っていうのは花巻のストーリー性が見えるようなデザインで夜も冬も美しいということで、そこに子供の施設やあとは行政の書庫がちょっとあふれているので、行政公文書をしっかり整理できるようなそういった機能性も併せている。

さっき花巻のストーリー性って言ったんですけども、これは主観ですけど山や森や川に支えられた人の営みがあって、賢治だけじゃなくて、歴史文化、田園の中で、市民性としてはたくましくておおらかで勤勉な、花巻っぽさ花巻人っぽさっていうのがあるので、それが見えるようなストーリーだといいなと。美しいことと、あと省エネ、エコであることが持続の秘訣かなということで、美しさ省

エネエコっていうのは追求した建物のほうがいいんじゃないかというイメージです。場所についてのイメージもあとちょっと。

どうもこのワークショップの流れを見てますとね、何となく駅前立地というような、雰囲気のように若干行きつつあるなあと。もっと場所をずばり、僕は新興跡地、元花巻城跡ですね。あそこの東公園。昔あそこは桜の名所であったし、鶴陰碑という花巻のまちをつくった人たちの碑もあった。あるいは、雅楽をやれる舞台もあったのかな。あそこは今、詐欺師の手に渡りましてね。瓦礫と化してる、みなさん4号線見れば分かると思いますけども、つまり土地転がしの対象として、市がですね、100万円で所有権を取得するチャンスがあったにも関わらず、あそこを手放してしまったというある種、市政の失政と私は見てるんですけども、だから、もう1回原点に返ってですね、新興跡地、いわゆる花巻城というお城の由緒ある、しかも東公園、宮沢賢治の詩に詠んでますけども、そういう場所にですね、もう1回場所的にも、非常に中心市街地に近いしですね、どうかと。つまり場所を全て御破算にして、最初から考え直すということで、新興跡地の再利用ということを提案しました。

それと、ちょっとつけ加えたんですけども、今僕らみんなマスクをして話しています。私も全員がなぜマスクをしてるんだろう、という。どういう時代に僕たちは生きてるんだろうという話がですね、僕は僕のワークショップの班で大分何回も言ってきたんですけども。つまり、出会いの場であると、図書館は。常套句として言われますけれども、果たして感染症の時代に、出会いというものはどういう形でね、あり得るのかと。あるいはまちのにぎわいをつくるということも、ソーシャルディスタンス、3密防止という観点から、どうあるべきかという議論をですね、きちっとやらなきゃいかん。いわゆるコロナ禍における図書館の在り方、例えばオーケストラの演奏も今距離を置いていますよね、楽器の。あるいは第9、今年の冬、12月に第9をどうやってみんなで歌うんだろうと。つまり、全てのものが、残念ながら、そういう時代に生かされてしまったという議論も、ぜひ必要じゃないかなと思います。

それとさっき、観光資源ということを僕言ったんですけども、これいきなり言うとか、何となく誤解を与えようと思うんですけども。つまり、僕らの班で言ったのはですね。賢治を聖人君子にするような神格化と風潮、それが余りにもちょっと目が過ぎるんで、むしろ賢治のよさを賢治の童話、中身のよさをね、訴えて、賢治がそのほうが喜ぶんじゃないかなと僕は思うんですけども。いい意味の賢治の観光資源化、世界唯一です、これは。どこ探してもないんですね、恐らく。教科書にも出てるし、賢治の本がない図書館は全国で恐らくゼロだと思いますが、そういう意味で、賢治をあえて挑発的に言うならば観光資源として使うという発想の転換が必要だというようなことをはなしました。

それを実現するための要のところ、お願いします。

大分時間がたちましたが、もうちょっとだけお付き合いください。スズメの千

声鶴の一声と、いうことわざがあるそうです。スズメがチュンチュンチュンとさえずるよりも鶴が一声鳴いた方が良いという、そのままの意味なんですけど、皆さん今回のワークショップを通じて、素晴らしいご意見がたくさん出てると思っていますが、これがですね、基本計画をつくる段になって、ポイっと投げ捨てられるようでは非常にまずいなと思ってそんな心配もしておりますが、要は立地あるいは施設内容、サービス計画と、いろんな視点からご意見出てますけれども、最終的にはですね、施設を運営する人なんだろうなと思っています。立地候補地点が5か所ぐらいありますけれども、どの場所であってもですね、皆さんから出た様々なアイデア、意見っていうのはですね、私は実現が可能なんだろうなと思っています。それはやっぱり図書館のスタッフに優秀な人材を迎え入れたり、揃えることなんだろうなと思っています。そういう意味で、図書館長にはですね、圧倒的なカリスマ性を持った民間人の方を公募をかけて、館長として起用する必要があるのではないかなと。また、館長を支えるスタッフの方々も、広く全国からですね、人材を求めるなど、利用者である皆さんが理想とする図書館を実現したいということで、職員体制を充実していきたいと思っています。

はい。そのほか、デジタルのところもちょっと意見ありまして、新しい時代に合わせた、時代の変化に対応できる余白を持ったデジタル機能って必要だよなっていうことと、それから成長する有機体っていうものの意味っていうものをどんどん追求できるような、そういった運用、運営サービス、そしてアクセスっていうものを確保するべきだと。これは項目も全部に当てはまるなということもここから離れないで、私たちの議論は進みました。以上で発表を終わります。

生涯学習課菊池

はい。最後3班さん大変ありがとうございました。想像以上にたくさん出てまいりまして、我々もちょっとこう、出てきて嬉しいという悲鳴とですね、これを、すぐにまとめてですね皆さんのほうにお届けしなきゃいけないというところもありまして、頑張りますというところなんですけども、たくさん出していただきまして、ありがとうございます。それではですね、ちょっと12時も過ぎてしまいましたが、ここで講評ということで早川先生のほうから、今回の全体を通してですね、ご講評いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

富士大学早川教授

はい。それでは私のほうから、お話しさせていただきます。新しい図書館を実現するのにどうしても場所はですね、何回も話題になって議論になってますけれども、3班の方の発表でですね、こういう発言がありました。皆さんが話してるような機能を持った図書館は、どこでも実現可能なのではないかと。そういうお話が非常に重要なんだろうなと思ってお聞きしていました。時間が超過してますので、最後に、皆さんが出していただいた、さっき3班の方も心配なされてましたけどもせっかくこのようなですね、皆さんのワークショップから出た考え、意見っていうのは非常に示唆に富んで方向性を示してくださってるわけですね。

これからそれを具現化していく段階に入っていく。やはりですね非常に皆さん勉強されていて、皆さんの意見が多く取り入れられれば、今後 10 年間の方向性を示していただいたって私は思っています。ただし、3 班から出たように示唆をいただいたことを具現化していくためには職員に相当の力量が求められます。これは間違いないです。そのためにですね、やはり館長公募、同感ですね。全く私は同感ですね。そういう段階に入っていくのだろうなっていうふうに考えています。あと、これから先は市のほうへ私からのですねアドバイスと思って聞いていただいてもかまいません。前回もちょっと申し上げましたけども、ここにいる皆さんの意見、皆さん自体が花巻市にとって大きな財産だっていう視点で、市の方には見ていただきたいなというふうに思います。もう今の時点から、新しい図書館をつくる時に必要なのが、新しい図書館ができるんだっていう機運を盛り上げていかなければならないんですよ。そのためにですね、ここに参加して下さっている方を新図書館の応援団、あとは皆さんの力を借りるというような形につなげていく活動を、もう今の時点から起こしていく必要があるかなっていうふうに感じました。きっとですね、皆さんから出た意見とか様々なですねこんな図書館であってほしい、それが形になっていけばですね、図書館に行こうよと、多くの人が誘ってくださるような。私はそういうのがもうちょっと目に見えてきてるんですけども。市に申し上げます。改めて、最後になります。ここで出た皆さんの考えを形にしていく段階にもう入ってきたということですね。やはり皆さんから出た期待、願いを是非ともその期待にこたえていく。ちょっと難しくなったら、私はこう思ってます。皆さんの力を借りればいいんですよ。市のほうも。そういうふうに皆さんと一緒に機運を盛り上げていく活動をやっていけたらと楽しみにしております。私からは以上です。

生涯学習課菊池

はい。早川先生大変ありがとうございました。我々も形にしていくために、さらに力を入れて頑張ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。そして皆様のほうからのご協力よろしく願いいたします。ありがとうございます。それでは、本日の作業が全て終了ということになりますので、最後ちょっと事務連絡とかですね、その他連絡をして締めたいと思います。まず、事務連絡ということです。毎回のお願いなんですけども、アンケート用紙を配布しておりますので、感想などご記入をお願いいたします。それから次回、最終回になりますが、次回は 10 月 25 日、日曜日です。場所は本日と同じ、ここ花巻市交流会館となります。同じく現地集合ですが、送迎の車も用意しておりますのでご利用の方はお知らせをお願いします。メールアドレス等ご連絡いただいている方には、次回のお知らせメールをしたいと思います。

あとちょっと、宣伝がありますので、ちょっと時間がない中ですが二つほど宣伝をさせていただきたいと思います。

都市再生室伊藤

はい、建設部都市再生室から来ている伊藤と申します。リノベーションまちづくりというものを担当しております、今リノベーションまちづくり構想っていうのをつくっているところです。これの構想も今このような形で民間の事業者さんを中心として議論をしている、構想の策定会議です。会議はオープンな場と、非公開の場もあるんですけど、今回公開の場として、10月23日夕方5時半からZoomで行うことにしています。チラシのほうこちら、入り口に置いてますけれども、無料でコーディネーターの皆さんとそれから市民の事業者さんたちのディスカッションを聞けるし、あとチャットでご自身の意見も出せるので、ぜひ広くたくさんの意見をお伺いできればと思いますし、関わりを持っていただきたいなと思ってますので、ぜひご参加のほうお願いいたします。

生涯学習課菊池

はい。ありがとうございます。あともう一つあります。すいません、石鳥谷図書館のほうからも宣伝があります。

石鳥谷図書館黒沢

はい。石鳥谷図書館の黒沢と申します。11月14日にですね、石鳥谷図書館であい授業というのを開催します。講師を務めていただくのが、釜石線の70周年ラッピング列車のデザインを担当した小林覚さんと、るんびにい美術館アートディレクターの板垣崇志さんに講師を務めていただきます。小林覚さんは自閉症という障害をお持ちの方なんですけど、この講演を聞いていただくとですね、自閉症というのが障害ではなくて、個性なんだなというのがすごいよく分かる講演で、お2人の漫才のような掛け合いでですね、すごい楽しい講演会ですので、こちらのご参加もよろしくお願いします。ちょっと定員がですね15名と、申込み順となっておりますので、お申込みをお願いします。入り口のほうにこちらもチラシがありますので、よろしくお願いします。

生涯学習課菊池

はい、定員15名ということ、お早めということですのでよろしくお願いします。以上宣伝でした。ありがとうございます。

それでは、アンケートの提出、それからネームプレートの回収をいたしますのでお願いいたします。それから、朝まなび学園から送迎の車でこられた方ですが、一応帰りの時間、ここから10分後、12時35分発としたいと思いますが、お揃いになりましたら、出発したいと思いますので、車は正面のほうに準備いたします。

それでは、本日は以上で終了となります。大変ありがとうございました。各自、気をつけてお帰りいただきたいと思います。本日は大変ありがとうございました。